

授業科目名・形態	コミュニケーション技術Ⅱ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	高橋 俊文	実務経験の有無	有	開講期	1年後期

【授業の主題】

クライアントは、様々な障害を抱えて生活している。そのため、コミュニケーションを取る上では、障害の特性を理解していくことが求められる。

本講では、様々な障害特性、障害の特性に応じたコミュニケーション技術を学んでいく。また、利用者・家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護を行う上で必要なコミュニケーション能力、技術、知識、考え方を理解することを目的とする。

【到達目標】

- 1) クライアントの抱える障害に応じたコミュニケーション技術を実践できる。
- 2) 介護を行う際に求められるチームにおけるコミュニケーションの方法・意味について説明できる。
- 3) 人間理解を深めることで、コミュニケーションを取る意味を再認識することができる。

【授業計画・内容】

- 第1回 コミュニケーション障害の理解
- 第2回 コミュニケーション障害のある利用者への対応
- 第3回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際①：視覚障害
- 第4回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際②：聴覚障害
- 第5回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際③：構音障害
- 第6回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際④：失語症
- 第7回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤：認知症
- 第8回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑥：若年性認知症
- 第9回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑦：精神障害
- 第10回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑧：知的障害
- 第11回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑨：高次脳機能障害
- 第12回 チームコミュニケーション
- 第13回 報告・連絡・相談の技術 及び 記録の技術
- 第14回 会議・議事進行・説明の技術
- 第15回 事例検討に関する技術 及び 情報の活用と管理のための技術

【授業実施方法】

基本的には、講義と演習を行う。講義には、主体的な学習態度で臨むこと(適宜視覚教材を、活用する)。

【授業準備】

テキストを事前に確認し、分からない語句を事前に調べておくこと。

【主な関連する科目】

コミュニケーション技術Ⅰ、介護の基本、介護過程、人間の理解、高齢者福祉論、生活支援技術、日常生活支援技術演習、障害者福祉論、認知症ケア論等。

【教科書等】

コミュニケーション技術(新・介護福祉士養成講座5)[第2版]中央法規。

【参考文献】

佐藤俊一：ケアを生み出す力、川島書店、東京、2011年、諏訪茂樹：援助者のためのコミュニケーションと人間関係、建帛社、東京、1995年、中山慎吾：認知症高齢者と介護者支援、法律文化社、京都、2011年。

【成績評価方法】

演習、レポート(40%)、定期試験(60%)で評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

相談援助職としての経験を活かし、支援を必要としている方をどのように理解すれば良いのか、段階的に理解できる授業展開とする。

【学生へのメッセージ】

それぞれの障害特性を理解した上で、クライアントとのかかわっていきましょう。また、クライアントとのかかわりをイメージしながら、コミュニケーション技術の活用方法を学んでいきましょう。